

August 15, 2019

【前日の為替概況】ドル円、反落 中国・欧州指標が低調で米金利低下、10年・2年債利回り逆転

14日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は105.91円と前営業日NY終値(106.74円)と比べて83銭程度のドル安水準だった。この日発表の中国や欧州の経済指標が低調だったことから、世界景気の減速懸念が高まり時間外の米10年債利回りが一時1.5708%前後まで大幅に低下。2007年以来となる米2年債利回りを下回った。英国でも10年債と2年債の利回りが逆転し、リセッション(景気後退)の前兆ともされる現象が起きたため、投資家のリスク回避姿勢が強まり円買い・ドル売りが先行した。24時過ぎに一時105.66円と日通し安値を付けた。

ただ、売り一巡後は下げ渋る展開に。ユーロや資源国通貨などに対してドル高が進んだ影響で徐々に下値が堅くなると、106円台前半まで下げ幅を縮める場面があった。

なお、トランプ米大統領はツイッターで「米連邦準備理事会(FRB)の金融政策変更ペースが遅い」と批判し、より迅速な行動を呼び掛けた。また、ナバロ米大統領補佐官(通商担当)はFOXニュースとのインタビューで「FRBは一刻も早く50bpの利下げを行うべき。そうすればダウ平均は3万ドルまで値上がりするだろう」と語った。

ユーロドルは続落。終値は1.1139ドルと前営業日NY終値(1.1171ドル)と比べて0.0032ドル程度のユーロ安水準だった。独10年債利回りが一時▲0.657%と連日で過去最低を更新したことを受けてユーロ全面安の展開となった。4時過ぎに一時1.1131ドルと5日以来の安値を付けた。

ユーロ円は大幅に反落。終値は117.98円と前日NY終値(119.24円)と比べて1円23銭程度のユーロ安水準。ユーロ全面安となる中、ダウ平均が800ドル超下落し、ナイト・セッションの日経平均先物が490円下げたことが相場の重しとなり、一時117.79円と日通し安値を付けた。

資源国のクロス円は軟調。欧米株安にくわえて、原油や銅など商品相場の下落を背景に資源国通貨とされるカナダドルや豪ドル、南アフリカランドなどに売りが出た。カナダドル円は一時79.35円、豪ドル円は71.25円、ランド円は6.85円まで値を下げた。

【本日の東京為替見通し】ドル円の売り材料は多いが105円半ばの取引か、豪雇用統計に注目

本日の東京市場のドル円は、上値は重い105円台半ばを中心にもみ合いか。昨日ドル円は105.66円まで下落したことで、一昨日急上昇したときのギャップをほぼ埋めたかたちになっている。ダウ平均が800ドルを超えて下落したのにもかかわらず、円買いの値幅は大きくはなかった。しかし、一昨日にドル円を売り込んで踏み上げられた市場参加者が多かったことを考えると、円買いが大きくなかったのは致し方ないだろう。いったん仕切り直しとなったドル円だが、依然として売り材料のほうが多い。香港のデモ、アルゼンチン危機、イタリア政局、ブレグジット、印パ情勢、中東情勢などの様々な地政学リスクや、米国の長短金利の逆転、日米通商協議を巡る円安の限界などがある。また、昨日は上記のように円買いは限られたものの、同じ避難通貨であるスイスフランは対ユーロで2017年6月23日以来のスイスフラン高にもなっていることで、資金の流れが避難通貨により傾いていくだろう。

一方、ドル円の買い要因としては、本日はゴト一日(5・10日)ということもあり、東京仲値にかけては買い意欲が見られるかもしれない。また、一昨日の上昇で買いそびれた本邦勢などが、手堅く買いを入れてくる可能性も高く、ドル円は売り材料が多いが105円半ばを中心とした取引になりそうだ。なお、人民元取引の基準値は、よほど市場予想や前日比からかい離がない場合は、市場の反応は限られそうだ。

ドル円以外の通貨は、豪ドルの動きに警戒したい。本日は7月の豪雇用統計が発表される。昨日は4-6月の賃金指数が市場予想より若干好結果だったが、豪ドルの買い戻しはわずかだった。その一方で7月の中国経済指標(鉱工業生産と小売売上高)の結果が弱かったことへの豪ドル売りの反応は大きかった。そのことを考えると雇用統計の結果は、ポジティブサプライズには反応が限られ、ネガティブサプライズには大きく反応することになりそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 13:30 ◇ 6月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 6月設備稼働率
- 終戦記念日

<海外>

- 10:30 ◎ 7月豪雇用統計（予想：失業率5.2%／新規雇用者数1.40万人）
- 15:30 ◇ 7月スイス生産者輸入価格（予想：前月比▲0.2%）
- 16:00 ◇ 5月トルコ失業率（予想：12.7%）
- 17:00 ◎ ノルウェー中銀、政策金利発表（予想：1.25%で据え置き）
- 17:30 ◎ 7月英小売売上高（自動車燃料含む、予想：前月比▲0.2%／前年比2.6%）
 - ◎ 英小売売上高（自動車燃料除く、予想：前月比▲0.2%／前年比2.3%）
- 21:30 ◎ 8月米ニューヨーク連銀製造業景気指数（予想：3.0）
- 21:30 ◇ 4-6月期米非農業部門労働生産性・速報値（予想：前期比1.5%）
- 21:30 ☆ 4-6月期米単位労働コスト・速報値（予想：前期比年率2.0%）
- 21:30 ◎ 8月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数（予想：10.0）
- 21:30 ☆ 7月米小売売上高（予想：前月比0.3%／自動車を除く前月比0.4%）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：21.4万件／168.5万人）
- 22:00 ◇ 7月ロシア鉱工業生産（予想：前年比3.0%）
- 22:15 ◎ 7月米鉱工業生産指数（予想：前月比0.1%）
 - ◇ 設備稼働率（予想：77.8%）
- 23:00 ◎ 8月全米ホームビルダー協会（NAHB）住宅市場指数（予想：65）
- 23:00 ◇ 6月米企業在庫（予想：前月比0.1%）
- 16日 03:00 ◎ メキシコ中銀、政策金利発表（予想：8.25%で据え置きと8.00%に引き下げで拮抗）
- 16日 05:00 ◎ 6月対米証券投資動向
- インド（独立記念日）、韓国（解放記念日）、ポーランド（聖母被昇天祭）、休場

16日

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

14 日 22:42 ナバロ米大統領補佐官(通商担当)

「トランプ米大統領は関税に関して強固で柔軟な決定をした」

「中国との協議において7つの構造的な問題が残っている」

「米中貿易協議について辛抱強く(patient)なる必要」

14 日 23:24 ボルソナロ・ブラジル大統領

「アルゼンチンはカオスに突き進んでいる」

15 日 00:52 トランプ米大統領

「FRB は迅速に行動するべき」

15 日 04:24

「米国の問題は中国ではなくFRB」

「FRB の利上げは早かったが利下げは遅すぎた」

「逆イールドは狂っている」

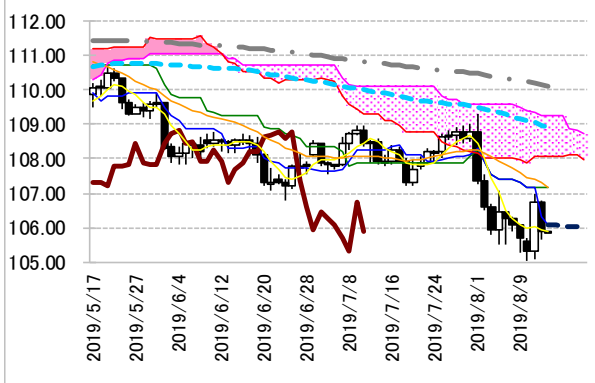
15 日 01:27 イエレン前 FRB 議長

「米経済は強く、リセッションを避けられるが、リスクは上昇している」

「逆イールドは景気後退への良い兆候ではないかもしれない」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

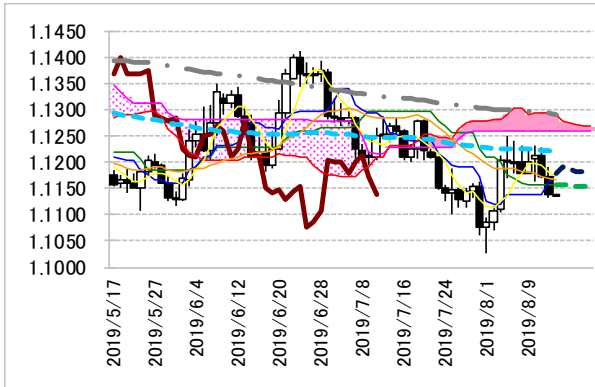


<ドル円=前日 NY 引けの水準から失速し、転換線を下回る>

下影陰線引け。前日 NY 引けの水準を維持できず大幅に失速し、いったん上回っていた一目均衡表・転換線を割り込んだ。

目的的な底堅さの示唆とも受け取れる下ひげのある足型を形成したため、転換線を回復する反発の可能性はある。しかし、急上昇後の調整の深さを鑑みれば、上昇再開よりも再び下値を探って、年初来安値をうかがうリスクを感じる。

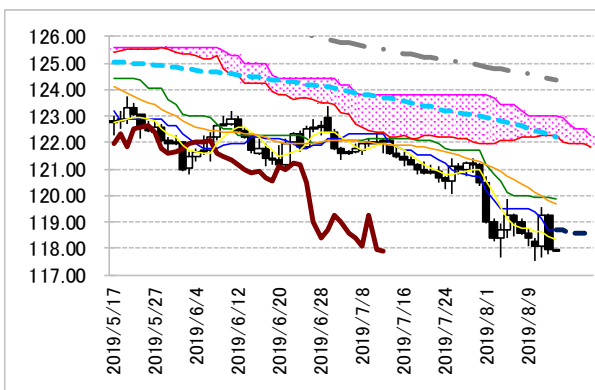
レジスタンス 2	106.98(8/13 高値)
レジスタンス 1	106.32(8/13-14 下落幅の半値戻し)
前日終値	105.91
サポート 1	105.11(8/12・13 安値を通る短期上昇トレンド)



<ユーロドル=サポート期待された転換線を下抜け>

上影陰線引け。一目均衡表・基準線を転換線が上回ったことによる買い示唆の地合いは、サポートが期待された転換線 1.1178 ドルだけでなく、基準線 1.1157 ドルも下抜けたことで崩れてしまった。上昇中の転換線を追って水準を回復する可能性はまだ残されているが、同線は程なく失速。むしろ、転換線に戻りを抑えられそうな様相となってきた。

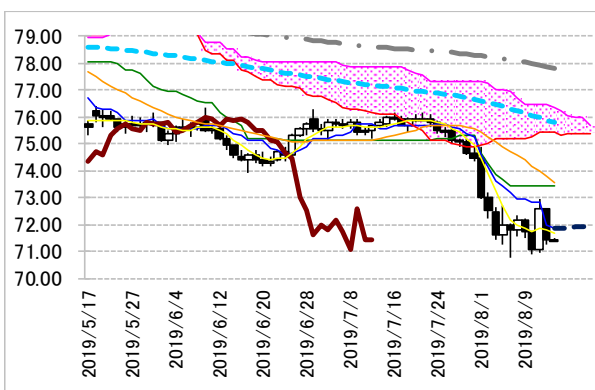
レジスタンス 1	1.1214(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	1.1139
サポート 1	1.1070(8/2 安値)



<ユーロ円=地合い変わらず、年初来安値の更新視野>

下影陰線引け。低下中の一目均衡表・転換線を上回る水準で伸び悩み、119 円台から 117 円台まで大幅反落となった。13 日の一時的な上振れは基調転換のきっかけにならなかった。動向を示唆する一目・遅行スパンの底辺が切り下がる傾向は続いており、12 日につけた年初来安値 117.52 円の更新が視野入りしている。

レジスタンス 1	118.32(5 日移動平均線)
前日終値	117.98
サポート 1	117.23(8/6-12 下落幅の N 計算値)



<豪ドル円=W ボトム形成による上伸ならず>

下影陰線引け。反転パターンのダブルボトムを形成し、上伸する展開が期待されたものの、低下中の一目均衡表・転換線をこなしきれずに 73 円目前で頭打ち。再び年初来安値更新へ向かうリスクが視野に入ってきた。転換線は、これまでの想定よりやや戻りは鈍くなる見込みだが、まだ来週 20 日にも上昇を再開する可能性がある。同線の戻りにともなう相場回復を期待するが、12 日安値 70.90 円や、7 日安値 70.75 円を抜けて下落を加速させるリスクがより懸念される。

レジスタンス 1	71.84(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	71.46
サポート 1	71.06(8/7・12 安値を通る短期上昇トレンド)

